

# 校長の 独り言



「断崖絶壁の観光地があるとする。カナダでは、Go beyond this point at your own risk. (行くのは勝手だが、自己責任だ)の看板が立っているだけ。日本では、「立入禁止」の看板を立て、入らないように柵を設置する。それでも事故が起きると、施設管理者の管理責任が問われることもある。」と言う話を聞きました。外国と日本とは責任の所在について、認識の仕方に大きな違いがあるように感じます。その違いはどこからくるのか、さらに聴いていると、外国と日本では童話の内容が異なるそうです。例えば「アリとキリギリス」という童話。日本では、お腹を空かせたキリギリスにアリが食べるものを分け与えるハッピーエンドの内容です。しかし外国では、キリギリスはアリから食べるものをもらえず、飢え死にする内容になっています。働くか働かないかは『自己責任』。でも、働かなければ飢え死にするよ、と教えているそうです。他にも「三匹の子豚」という童話。日本では、レンガの家を建てた三男の家に長男・次男が避難し、三匹ともオオカミに食べられずに済むハッピーエンドの内容です。しかし外国では、藁や木の家を短時間で建てて遊んでいた長男・次男はオオカミに食べられてしまい、時間をかけて頑丈なレンガの家を建てた三男だけが助かる内容になっています。どんな家を建てるかは『自己責任』。でも、よく考えて建てないとすぐに壊れてしまうよ、と教えているそうです。何かあっても誰かが助けてくれるという『絆』を大切にしたい日本の童話と、自分が招いたことは自分で責任をとりなさいという『自己責任』を大切にしたい外国の童話。どちらが良いかではなく、子ども達にはどちらも教えていきたい内容だなあと感じました。みなさんはどう思いますか？

図書委員の子ども達が、1・2・3年生に、読み聞かせをしてくれました



文責；山名 聡



# 今富っ子

小浜市立今富小学校  
令和元年10月1日  
= 10月号 =

## 『本物に触れる体験』を大切にしています



「レース前のアップ中に、今日は調子が良いと感じた時は、自己ベストに近いタイムで走ることが出来ます。しかし、自己ベストを上回るタイムで走れた時は、レース前にアップをしていても、今日は調子が良いのか悪いのか分かりませんでした。これから、未知の世界へ進もうとしていたので・・・。」

先日、体育の授業で講師を招いての陸上教室を五・六年生対象に行いました。講師は立命館大学陸上部の梶川颯太さん(小浜二中出身)です。冒頭の話も聞かせてくれました。短距離走が専門で、一〇〇mのベストは一〇秒四九。その走りを実際に目の前で見た子ども達からは、「おおっ!」という驚きとも感動ともとれる声も、思わず漏れていました。その後、どうすれば速く走れるか教えていただき、いつも増して一生懸命、練習に取り組んでいました。

本校では、さまざまな体験活動に取り組んでいます。地域の自然や文化、産業に触れる体験活動。そして、その道のプロを招いて、素晴らしい技術を実際に見せていただく、子ども達に直接指導して



いただくという体験活動です。科学技術の進歩により、パソコンやゲーム機を使ったバーチャルな体験が多い子ども達には、フィジカルな(五感を使った)体験をさせて、子ども達の感性を磨いていくことが必要であると考えるからです。特に後者の体験活動では、その道のプロに出会うことで、一流の技術を目の当たりにできます。その道のプロから話を聞くことで、新たな価値観に触れることができます。その道のプロと一緒に同じ場所、同じ時間を過ごすことで、人生観を広げることが出来ます。こういった理由から、本校では、大切な教育活動のひとつとして位置づけ、『本物に触れる体験』と銘打って実施しています。今年度は五月に越前市体操スクールの先生を招いて、「器械運動」で実施しました。今回は「陸上競技」。一月には「落語」。落語家の桂三金さんとピアニストの美月さんを招いて、効果音をピアノで演奏する斬新な落語を聴かせていただく予定です。年明けの一月には「なわとび」。福井県出身で「七重跳び」を成功させた世界ギネス記録保持者、森口明利さんに、なわとびの凄いや見せていただく予定です。ダイヤの原石は、磨き続けることで美しく光り輝きます。子ども達の感性も磨き続けることで、研ぎ澄まされていきます。『本物に触れる体験』をこれからも大切にしていきます。

ご意見・ご感想をお聞かせください。

〈キリトリセン〉

お名前 ( )

---



---



---